

細川時代には家老の長岡佐渡の屋敷、小笠原時代には藩主の下屋敷（別邸／御遊所）があった場所に、江戸時代の大名の池泉回遊式庭園と武家の書院が再現されています。これに茶室や展示棟を備え、小倉城庭園は庭園ゾーン・書院ゾーン・体験ゾーン・展示ゾーンの4つに分かれています。



「上段の間」「一の間」「二の間」「取次の間」などからなり、広縁の一部が池に張り出す「懸造り」となっているため、眼下に広がる庭の眺めが楽しめる。

席」や、茶会に利用できる座敷があります。展示ゾーンでは、全国的にも珍しい「礼儀作法」を中心とした日本の伝統的な生活文化を伝えていきます。小笠原流の作法を記した「小笠原礼法絵巻」も公開。庭園から眺める小倉城の美しさも見逃せません。



住所：小倉北区内1-2  
電話：093-582-2747  
営業：4-10月9:00～18:00 / 11-3月9:00～17:00、年中無休  
※入館は閉館の30分前まで  
料金：350円  
(中学生200円・小学生100円)  
MAP①

日本の礼法に焦点をあてた常設展示に加え、年4回、日本の伝統的な生活文化に密着した企画展示も行われている。



池面が周囲よりかなり低い「のぞき池」になっているのが特徴。「浮見の庭」とも呼ばれる。

英彦山は、福岡県田川郡添田町と大分県中津市山国町にまたがる標高1199メートルの山。羽黒山（山形県）、熊野大峰山（奈良県）とともに「日本三大修験道」の一つに数えられます。山伏の修験道場として古くから武芸の鍛錬に力を入れており、最盛期には大名に匹敵するほどの兵力を保持していたとされています。一説によると、佐々木小次郎は添田町にあった「岩石城」を拠点とした佐々木氏の出で、背後には



高さ約7m、青銅製の大鳥居。国指定重要文化財に登録されている。

英彦山修験道の山伏勢力が控えていたといえます。そのため、あの有名な「巖流島の戦い」は、土着勢力を恐れた細川忠興が小次郎の抹殺を図ったものとの説もあるようです。また、現在、山の中腹に建っている桃山建築様式の「英彦山神宮奉幣殿」は、1616（元和2）年に細川忠興が再建したものです。以後、小倉藩主によって修復されており、様々な場面で小倉城とのつながりが感じられます。



英彦山神宮奉幣殿はかつての英彦山靈仙寺大講堂で、英彦山修験道の中心的建造物だった。

## 池泉回遊式庭園と本格的木造建築の書院造り

# 小倉城庭園

Kokura Castle Garden

# 小倉城の石垣

Stone Walls

## 自然石を積み上げた「野面積み」

2度の戦火に巻き込まれた小倉城ですが、石垣は築城当時の姿が残っています。特徴的なのは、切石を使わず自然の石を積み上げる技法「野面積み」。石は小倉城の東に位置する足立山から運ばれたものだと伝えられています。

また、3Dスキャナーで石垣の構造調査を行ったところ、小倉城天守の直下部分の石垣に、内側にカーブさせて積む「輪取り」という技術が用いられていることが判明しました。これは強度を保つための工夫だったと思われる。

MAP⑥ 大手門 このように複数の巨石で雄大に構成されている石垣は非常にめずらしい。MAP⑥ 輪取り 石垣の最下段とその上部で色が異なる。上部は平成期に再建されたもの、下段は創建当時のものと考えられている。

## 小倉城よりみち散歩

小倉城にまつわるスポットをさらに深く、一足のぼしてご紹介します。

## 小倉の歴史が残る修験の山

# 英彦山

Enryu Taisha

英彦山  
住所：田川郡添田町英彦山  
電話：0947-82-1236  
(添田町役場まちづくり課)

英彦山神宮  
住所：田川郡添田町英彦山1  
電話：0947-85-0001

## 茶道を愛した細川忠興の器

# 上野焼

Ueno Ware

上野焼は、1602年に豊前小倉藩主・細川忠興が李朝陶工・尊楷を招いて小倉藩の領地だった上野（田川郡福智町）に窯を築いたことがはじまりとされています。細川忠興は千利休から直接教えを受け、茶道に造詣が深いことでも知られています。

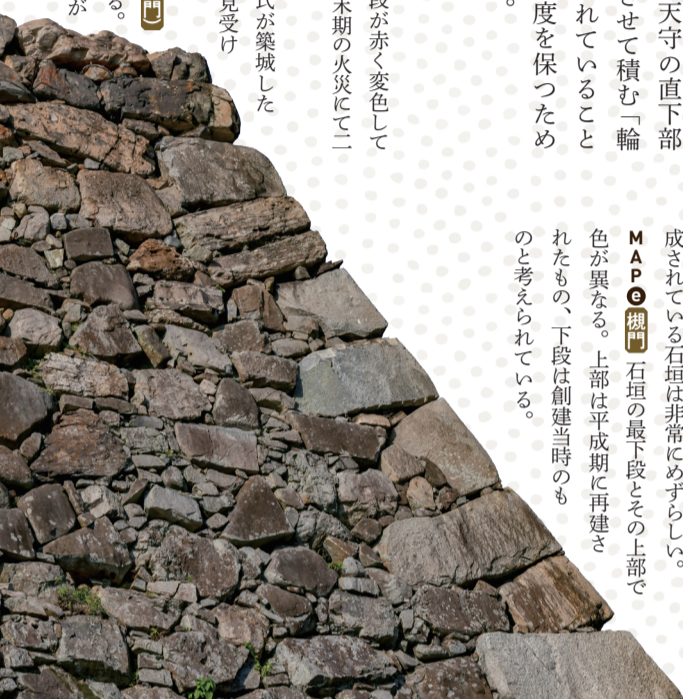
るほどに高い評価を受けます。その後、明治時代の廃藩置県により窯が閉鎖され、窯元は途絶

再興され、今に至ります。1983（昭和58）年には国の伝統的工芸品に指定されました。茶陶として発展した上野焼は軽く、薄づくりであることが特徴。また、使用する釉薬の種類が多く、窯の中で釉薬が様々な模様を描き出す「窯変」も魅力の一つです。



もっと

石垣を楽しみたい方へ  
MAP⑤ 天守櫓西面 石垣の上段が赤く変色している。この部分の石は天保期・幕末期の火災にて二度焼けたものかもしれない。  
MAP⑥ 井戸（鉄門） 細川氏が築城した城には城壁をくぼませた井戸が見受けられる。  
MAP⑦ 石垣の改築（西ノ口門、鉄門） かつての石垣の「隅石」がみられる。左側が細川氏が築いた石垣、右側が近代以降に新しく築かれた石垣。



産が続けられた。徳川時代には遠州七窯の一つに数えられ



えたかのように思われ、1902（明治35）年に田川郡の補助を受けて

上野焼陶芸館  
住所：田川郡福智町上野 2811-1  
電話：0947-28-5864  
(上野焼協同組合)  
営業：10:00～17:00、火曜定休  
※窯元には各自お問合せください

